

大阪版中学校で学ぶ英単語集について

この英単語集は、府内の公立中学校で使われている英語教科用図書（教科書）に掲載されている英単語から、日常的に使用頻度が高いと思われる語を抜き出したものです。この英単語集には、動詞の過去形、過去分詞形、現在分詞形や名詞の複数形、形容詞・副詞の比較級、最上級については掲載していません。ただし、不規則に変化する動詞の過去形、過去分詞形、及び不規則に変化をする形容詞・副詞の比較級、最上級は《活用》として、また、注意を要する名詞の複数形は《複数》として表記してあります。

それぞれの単語には日本語での意味を付けてありますが、これはあくまでも標準的と考えられるものであり、文の中で使われる状況により日本語での表現のしかたが変わることもあります。

また、単語は文脈の中で使われてこそ本来の働きをするものであるとの観点から、それぞれの単語には「用例」という項目を設定して、その単語が使われる状況が少しでもわかるように表現を添えています。

なお、問題作成にあたっては、学力検査問題の難易度に応じた単語を使用します。

<「大阪版中学校で学ぶ英単語集」の活用の一例>

単語は文脈の中で使われてこそ本来の働きをする、と述べましたが、単語を学習する際には、文構造を意識してみてください。同じ単語であっても、異なる文構造をとるものがあります。

1) know や understand など

語順では know（「…を知っている」）の後ろ（「…」に相当する部分）には名詞や代名詞が置かれますが、次のような文構造をとる場合もあります。

- He knows that his father is ill.
- He knows how to use the computer.
- He knows what he will do next.

2) teach や tell、show など

これらの動詞は様々な文構造をとります。例えば、tell では、

- She told an interesting story to us.
- She told us an interesting story
- She told us to read the story.
- She told us when to read the story.

3) call や make など

これらの動詞は文構造の違いで意味が異なります。

- I called him soon. / We call him Ken.
- She made us a sandwich. / Her songs always made us happy.

このように異なる文構造をとる動詞について、その用例を英単語集の「用例」でふれていますので、参考にしてください。